



# 文化財保護センターだより

第19号

平成9年7月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内)

TEL058-264-1111(代)  
FAX058-264-0343

## ●もくじ

表紙	埋もれた赤彩古墳……………1	調査	岩井谷・市場・瀬戸南・阿多粕遺跡発掘調査…4,5
巻頭言	恒久施設建設を夢みて……2	トピックス	丹生川ダム関連の発掘調査を終わって……6,7
組織	平成9年度役職員 ・事業計画……………3	声・記録	本部整理所から センター日誌ほか……………8



## 埋もれた赤彩古墳<sup>せきさい</sup>

昨年度揖斐郡池田町において二ノ井遺跡の発掘調査を行ったところ、完全に埋没していた古墳が発見され、南高野古墳と命名されました。古墳の石組みはかなり崩壊していましたが、床面からは数多くの副葬品（金属製品や土器）が良好な状態で出土しました。この古墳は、石室の構造や出土した遺物から6世紀後半に築造されたと推定されます。また、古墳の玄室内面にはベンガラという赤い顔料が塗られており（＝赤彩古墳という）、県内では上石津町の二又1号墳に次いで2例目となる貴重な発見となりました。

# センターの恒久施設建設を夢見て



岐阜市立明德小学校 校長  
岐阜県小学校社会科研究会 会長  
**丸山 幸太郎**  
昭和60年～平成元年、県文化課  
で当センター設立の基になった  
基本計画策定を担当

## 発掘調査激増への対応

昭和63年4月、県文化課の文化財係長に就任したとき、1,000件近い国・県指定文化財の保護と高山陣屋第3次整備にかかる業務のほかに、徳山ダム・長良高校体育館建設地発掘調査を始めとする埋蔵文化財の保護・調査業務がうなぎ上りに増えるときで、その対応に追われていた。

当時、文化課の入口の鍵を返す時間が、連日深夜2～4時で、それが当たり前になっていた。県美術展や芸能文化祭等を主催して多忙な文化係、博物館・歴史資料館・美術館等の予算にもかかわる庶務係とともに、仕事量は増えるばかりで減りはしなかった。

毎月の係会議で問題になったのは、徳山ダムや東海北陸自動車道、東海環状自動車道など長期にわたる大規模開発にかかる埋蔵文化財調査体制をどう整備するかであった。激増する開発調査に対し、25～30名の調査員(学芸主事)を置く必要がある事態が迫っていた。この事態の打開策として県文化財保護審議会(日置弥三郎会長)に、現状を報告し意見を求めたところ、県として埋蔵文化財調査体制の整備を急ぐべきである旨の提言を得た。

## 埋文調査体制整備基本計画策定委員会発足

文化財保護審議会の提言を受けて、岐阜県埋蔵文化財調査体制整備策定委員会を、平成元年4月に発足させた。合わせて、穂積町牛牧の県有地モータープール跡宿泊棟を文化課所属とし、出土品の整理保存所とした。

上記の基本計画策定委員会は、県教育長を委員長とし、総務部財政課長・人事課長を始め、企画部・商工労働部・開発事業局・農政部・林政部・土木部・教育委員会の関係部課長16名で構成する策定委員会と、関係課の実務担当係長18名による幹事会の二部構成にして、基本計画の策定を進めた。

## バスで先進県埋蔵文化財センター視察

基本計画策定推進のため、関係者による隣接の石川・富山・長野・三重など各県の埋蔵文化財調査センターの視察をした。特に、愛知県埋蔵文化財調査センター(弥富町、清洲町など)は、多数の策定委員の参加を得て、バスを仕立て視察を行った。各委員には、学校・庁内からの派遣職員が50名以上、数百名の嘱託員・賃金作業員の働く姿や大きな施設を見たことで、調査体制の整備を急ぐ必要があるとの認識を、一挙に深めていただいた。

平成2年3月には、岐阜県埋蔵文化財調査体制整備基本計画の策定をみた。合わせて、策定委員会が、体制整備推進協議会へと、発展的切替をすることを認めてもらった。この推進協議会には、文化庁主任調査官や各地区教育長会長など8名からなる専門部会が設けられており、その意見をいただきながら、調査センターの設立ができるように図った。

## 恒久的な県文化財保護センターの建設を

私がかかわったのは、それまでであったが、1年後の平成3年4月1日には、穂積町所在の出土品整理保存所に、(財)岐阜県文化財保護センター(会長:梶原拓県知事)が設立された。同6年4月には、岐阜総合庁舎に移転し、正規職員50名を越える体制となっていることは、誠にありがたい限りである。この上は、恒久的なセンターの施設が早く建設されることを切望している。

# 平成9年度の組織

(平成9年6月現在)

## ●役員

会 長	梶原 拓 (岐阜県知事)
副 会 長	森元 恒雄 (岐阜県副知事)
理 事 長	藤田 幸男
専 務 理 事	河合 周治
常 務 理 事	石黒美智雄
理 事 事	浅野 勇 (岐阜県市長会会長)
理 事 事	中井 健 (岐阜県町村会会長)
理 事 事	後藤左右吉 (岐阜県都市教育長会会長)
理 事 事	平野 敬 (岐阜県町村教育長会会長)
理 事 事	大野 政雄 (岐阜県文化財保護審議会会長)
理 事 事	高橋 新蔵 (岐阜県総務部長)
理 事 事	森井 孝雄 (岐阜県農政部長)
理 事 事	斎藤 博 (岐阜県土木部長)
理 事 事	船坂 勝美 (岐阜県開発企業局長)
理 事 事	日比 治男 (岐阜県教育長)
理 事 事	衣斐 基夫 (岐阜県教育委員会指導部長)
理 事 事	高田 晃 (岐阜県博物館長)
監 事	服部 卓郎 (岐阜県総務部参与)
監 事	種瀬 文晴 (岐阜県副出納長)

## ●職員

理事長	藤田 幸男
専務理事兼事務局長	河合 周治
常務理事兼総務部長	石黒美智雄
総務部 課 長	平林 哲男
主 査	渡辺 紀和
主 任	板津 山子
主 事	田中 康宏
調査部 部 長	山元 敏治
次 長	高橋 幸仁
第1課 課 長	中島 康夫
課長補佐	飯沼 暢康・竹中 一秋・早野 壽人・小谷 和彦・稲川 威
第2課 学芸主事	阿部 昌史
課 長	浅野 哲男・河瀬 実浩・大知 正枝
課長補佐	市原 輝明
第3課 学芸主事	片桐 隆彦・富田 雅之・藤岡比呂志・岡田 吉孝・堀 正人
課 長	千藤 克彦・村瀬 泰啓
課長補佐	成瀬 正勝・松岡 千年・小瀧 忠司・澤村雄一郎・小野木 学
第4課 学芸主事	祐植 卓伸
課 長	河村 一彦・佐野 康雄・大橋 弘志
課長補佐	堀田 一浩・小塩 康貞・青木健太郎・藤田 英博・春日井 恒
学芸主事	近藤 大典・長谷川幸志・増子 誠
飛騨出張所 所 長	伊藤 秀雄
課長補佐	上原 真昭・上出 巳吉・上嶋 善治・八賀 哲夫・谷口 和人
調 査 員	野村 宗作
事務嘱託	政井 美子

## 平成9年度の事業計画

事業名	事業者名	調査地	遺跡名	時代等	
徳山ダム建設関連事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	水資源開発公団 徳山ダム建設所	徳橋村 徳山地区	塚奥山遺跡 上原遺跡第2地点 上原遺跡1・3～6地点 寺屋敷遺跡 磯谷口遺跡	縄文時代の集落遺跡 縄文時代の集落遺跡 縄文時代の集落遺跡 旧石器・縄文・中世寺院跡 縄文～古代の遺物散布地	
関ヶ原バイパス建設事業 埋蔵文化財発掘調査	建設省岐阜 国道工事事務所	関ヶ原町	野上遺跡	弥生・中世の遺物散布地	
東海環状自動車道建設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	建設省多治見 工事事務所	美濃加茂市	山之上・下米田地区	範囲確認試掘調査	
東海環状自動車道建設・土岐土地 区画整理事業 埋蔵文化財発掘調査		関市	西屋敷遺跡	中世の水田跡	
		御嵩町	願戸南遺跡	弥生・中世の遺物散布地	
関テクノハイランド建設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	岐阜県土地開発公社	土岐市	穴弘法3号古窯跡	古代古窯跡	
		関市	下有知遺跡群	古代～中世の古墳・古窯・集落	
鹿塩工業団地建設事業 埋蔵文化財発掘調査	県土木部	川辺町	鹿塩地区	範囲確認試掘調査	
ソフトピアジャパン建設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		大垣市	今宿遺跡	弥生～古墳、中世の集落・水田跡	
VRテクノジャパン建設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		各務原市	船山北古墳群・古窯跡群	古墳、古代～中世の古窯跡	
「りはとびあ」整備事業 埋蔵文化財発掘調査		下呂町	上ヶ平遺跡	縄文・古代の遺物散布地	
原道岐阜関ヶ原線・大垣池田線改良事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	県土木部	揖斐土木事務所	池田町	市場遺跡・ニノ井遺跡・南高野古墳 片山城跡・城ヶ谷7号墳	縄文時代の遺物散布地 古代の遺物散布地・中世の城跡
国道248号道路改良事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		可茂土木事務所	美濃加茂市	野笹遺跡	縄文時代の遺物散布地
国道256号道路改良事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		美濃土木事務所	洞戸村	電場遺跡	縄文時代の遺物散布地
湯屋温泉線道路改良事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		萩原土木事務所	小坂町	湯屋遺跡	縄文時代の遺物散布地
丹生川ダム建設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		宮川上流河川開発 工事事務所	丹生川村	丸山・たのもと・牛垣内遺跡	縄文時代の遺物散布地 縄文時代の集落跡
県営土地改良総合整備事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	県農政部	揖斐土地改良事務所	春日村	岩井谷遺跡	縄文時代の集落・遺物散布地
緑が丘苗畑跡地利用事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成		飛騨土地改良事務所	萩原町	沖田遺跡	縄文時代の遺物散布地
ふるさと林道開設事業 埋蔵文化財発掘調査・報告書作成	県林政部高山山林事業所	久々野町	阿多粕遺跡	縄文時代の遺物散布地	
東海北陸自動車道建設事業 埋蔵文化財発掘調査	日本道路公団 清見工事事務所	白川村	嘉念坊寺ヶ野道場跡	中世道場跡	

# 発掘調査状況



当センターでは本年度、地元関係諸機関や多数の方々のご協力をいただき、県下14市町村14遺跡で発掘を実施します。このうち4遺跡の概要についてお知らせします。

## ■岩井谷遺跡（揖斐郡春日村）

本遺跡は、揖斐郡春日村美東の尾西集落西部に位置する遺跡です。県営土地改良総合整備事業に伴い、平成7年度春日村教育委員会によって試掘調査が行われ、縄文時代の土器や石器を中心に多数の遺物が出土し、遺跡であることが確認されました。

この遺跡は谷間にできた小扇状地状の緩やかな斜面にあり、南北約150m、東西約300mの範囲に広がっています。試掘調査では、深さ約25cmから60cmのところまで縄文時代早期（今から約10,000年前～6,000年前）から縄文時代後期（今から約4,000年前～3,000年前）の土器片が約700点、石器や石器を作る際に残るかけらを中心に80点あまり出土しました。

今年度より本格的な発掘調査に入り、遺跡の北部中央の地点より調査を開始しました。表面の耕作土をはぎ取り、下層の遺物が多く含まれていると考えられる層（包含層）にさしかかったところで、縄文土器が多数出土しています。わずかに縄文時代中期（今から約5,000年前～4,000年前）以降の土器を含みながらそのほとんどが縄文時代後期の土器片と見られます。中には縄文時代後期によく見られる注口土器（きゅうすのような形をした土器）の注口の部分も見つかっています。石器では、石鏃（石のやじり）が13点、石錘（石のおもり）が20点、その他打製石斧・磨製石斧（石製の斧）などが出土しています。

今後さらに調査を進めていく中で、縄文時代を中心とする遺構の検出が期待されます。



岩井谷遺跡の発掘調査の様子

## ■市場遺跡（揖斐郡池田町）



市場遺跡の発掘調査の様子

本遺跡は、池田山（とうなんさん）を流れる金地谷川（かねだにがわ）によって形成された扇状地（せんじょうち）の扇頂部（せんとうぶ）に位置しています。

数年前に行われた圃場整備の際、地元住民が縄文土器などを採集し、遺跡として確認されました。そして今年度主要地方道岐阜関ヶ原線道路改良工事に伴い、発掘調査を行うことになりました。

一昨年度に行った試掘調査では、縄文時代の土器や石器類が確認されています。特に地表面から40～60cm下にある暗褐色（あんかつしき）の土層中からは、縄文時代早期後半と思われる押型文土器（おしがたもん）（短く切った木の棒などに楕円形や山形の模様を削り、それを土器の表面に転がして文様をつけた土器）が数点出土しました。

このことから、縄文時代でもかなり古い時期が中心の遺跡ではないかと考えられます。他に池田町内での縄文時代早期の遺跡としては墳之越遺跡（つかのこし）が知られています。



市場遺跡 出土土器

今回の調査面積は、500㎡で、それほど広い範囲ではありませんが、縄文時代早期を中心とした遺構や遺物の検出が期待されます。

## ■顔戸南遺跡（可児郡御嵩町）

本遺跡は御嵩町顔戸地内を流れる、可児川によって形成された河岸段丘上に位置しています。従来から、弥生土器や須恵器などが表面採集されており、遺物散布地として認識されていました。また、この地域には縄文時代以降に属する遺跡が幾つか存在し、特に古墳時代前期～終末期にかけての古墳が数多く確認されています。さらに奈良時代の条里制遺構（土地区画制度に基づく地割遺構）が広範囲にわたり残っている地域とされています。

平成8年度に東海環状自動車道建設工事に伴う試掘調査を実施しました。25,000㎡の調査対象面積に対して、約10%の面積をトレンチ調査（約2m幅の細長い溝を掘り発掘を行なう）したところ、溝や土坑が幾つか検出され、それらに伴う古墳時代の土師器や須恵器、木製品、平安～室町時代の陶器類が多数出土しました。

本年度の調査は昨年度の調査をもとに5,000㎡の範囲を実施しています。現在までに新たに数条の溝や土坑が検出され、写真のような土器溜まりも確認できました。



出土した土器溜まりの様子



土器溜まりからは炭や炭化物の上に古墳時代の高坏や甕が倒れて割れたような状態で検出されました。このような遺構の性格は定かではありませんが、今後調査を進めていく中で、遺跡の性格とともに個々の遺構についても検討していきたいと考えています。

## ■阿多粕遺跡（大野郡久々野町）

本遺跡は、大野郡久々野町の南端にある阿多粕集落を流れる、谷川の右岸に広がる扇状地上に位置しています。



発掘調査の様子

以前から縄文時代の散布地として知られていましたが詳細は不明でした。事前の踏査および試掘調査の結果、下呂石製の石器類が出土しました。遺跡の近くには、寛政2(1790)年まで置かれた留番所の跡があり、かつては交通の要衝であった所です。

今回の発掘調査は、ふるさと林道開設事業に伴うもので、現道の舗装を剥いでから発掘にかかりました。現在までの調査では、まだ、明確な遺構は検出されていません。

出土遺物は、縄文土器や石器類です。縄文土器は、いずれも小片ですが、早期の押型土器、後期前葉から中葉の土器、晩期の土器などです。

石器類としては、下呂石の剥片が多く出土していますが、その中に混じって黒曜石もあります。縄文時代においても、この地は交通の要衝であったと言えます。また、製品としては、石鏃、石匙等が出土していますが、打製石斧が比較的多く出土している点が注目されます。

まだ発掘の途中なので、遺跡の性格等は不明ですが、今後の調査の成果が期待されます。



遺物の出土状況

# 丹生川ダム関連の発掘調査を終えて

トピックス

## —— 丹生川村五味原遺跡群 ——



丹生川村折敷地の集落のはずれから山と山に挟まれた谷沿いの道を500メートルほど逆上ると、空が急に広くなり視界がひろがります。ここが、縄文時代早期から晩期までの遺跡が発見された丹生川村折敷地五味原です。

五味原の発掘調査は、丹生川ダム建設に伴って実施され平成5年から4年間行われました。出土した遺物は30万点におよびます。「西田」「牛垣内」「カクシクレ」「丸山」「たのもと」の5遺跡が調査されました。

ダム建設が計画される以前は、十数軒の民家が山々に囲まれて点在する日本的な風景の集落でした。荒城川の最上流部に位置する標高840～890メートルのこの地域が、縄文時代数千年間にわたり、人々の生活の場として利用されたことを想像した人は少なかったでしょう。

5つの遺跡は、半径200メートル以内に点在し相互に関連しあっていたと考えられます。ここで、5つの遺跡の特徴を見てみましょう。

### 1 西田遺跡（平成5～6年度）

遺物総数は約20万点におよび5つの遺跡の中で最も多量の遺構・遺物が出土しました。中心となる時期は、縄文時代早期中葉～前期初頭と縄文時代後晩期です。

注目されるものとして、縄文時代早期の焼礫集積(炉)遺構73基と早期から前期初頭の土器群があります。早期の押型土器は復元されたもので約50個を数えます。また、縄文時代後晩期では、住居跡19軒と復元された土器約70個や土偶73個体などがあげられます。



五味原

焼礫集積(炉)遺構  
穴を掘り、大きめの平たい石で壁を作り、その中に焼けた石がつめてあります。食物を蒸し焼きした調理施設と考えられています。

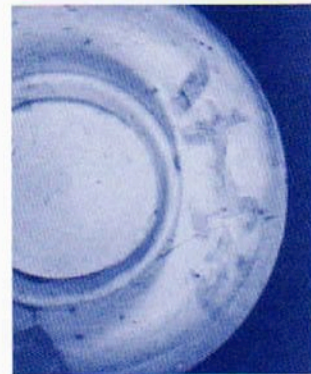


焼礫集積(炉)遺構

### 2 牛垣内遺跡（平成6～7年度）

中心となる時期は、縄文時代早期・中期後葉・晩期末です。縄文時代早期の住居跡1軒と中期後半の住居跡8軒が検出されています。

当遺跡では、平安時代の「かまど」のある住居跡1軒も検出されました。また、この時代に使



灰釉陶器に書かれた墨書

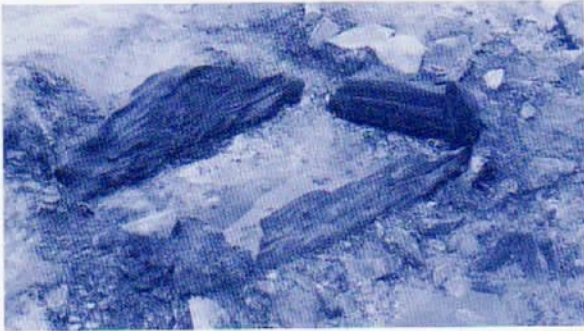
われたと考えられる灰釉陶器が出土し、そこには墨で文字が書かれていました。

平安時代、五味原の地に文字文化をもった人々の生活があったことがうかがえる貴重な資料と言えます。

### 3 カクシクレ遺跡（平成7年度）

西田遺跡など他の遺跡と荒城川を挟んで対岸に位置するこの遺跡では、縄文時代晩期の水さらし場遺構が検出され話題を集めました。

板状に加工された木材で四方を囲んだこの遺構は、トチ・クルミなどの木の実を洗ったり水にさらしてあくを抜いたりするために使われたもので、縄文時代の人々の生活を支えていた食生活を探る上で貴重な資料と言えます。

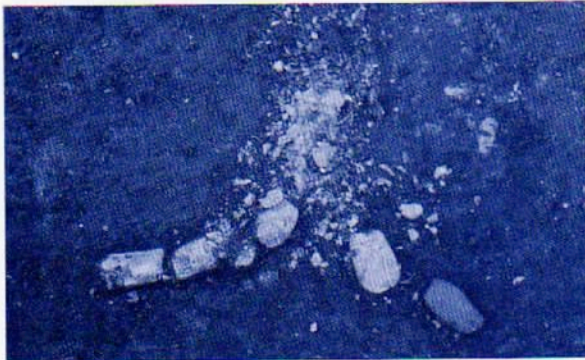


水さらし場遺構

#### 4 丸山遺跡 (平成8年度)

縄文時代早期の住居跡1軒と中期前半の住居跡が2軒、それに多数の貯蔵穴と思われる遺構が検出されています。

ここでは、装飾品として使われた琥珀玉が出土しました。縄文時代の琥珀製品は風化しやすいため検出が稀です。この琥珀がどこから運ばれてきたのか、そのルートを探る上で貴重な資料です。



琥珀製品

#### 5 たのもと遺跡 (平成8年度)

縄文時代後期の住居跡1軒と縄文時代早期から晩期までの遺物と灰釉陶器などが出土しています。縄文時代後期のまとまった土器資料が注目されます。



縄文時代後期の住居跡

五味原は、山水の豊かなところでは、各所で湧き水がみられます。遺跡の発掘調査もたびたび湧き水に悩まされました。

縄文時代晩期の「水さらし場遺構」が出土したカクシクレ遺跡も、豊富な水量の山水が遺跡の中央を流れていました。豊富な水量でかつ夏でも涸れない水がある場所は、縄文時代の人々の居住条件を満たす大きな要素であったに違いありません。

夏休みの発掘体験学習に参加した小学生が、「休憩のときに飲んだ山水がおいしかった。忘れられない。」と感想に記しています。

5つの遺跡の中央を荒城川が流れ、川からの恵みも豊かであったでしょう。五味原の秋は美しく、落葉広葉樹林に囲まれるこの地は、縄文人の豊富な食料を提供していたに違いありません。

五味原の元住民で発掘作業に携わった人達は、「自分たちの故郷にこんな素晴らしい遺跡が存在していたことを誇りに思う。」そして、「自分たちの手で故郷の遠い歴史を掘り上げたことは幸せであった」と語っておられます。

この縄文時代の「桃源郷」ともいえるこの地に、どうやって縄文の人々がたどり着き生活を営んでいたのだろうか。想像は限りなくふくらみます。

#### ○各遺跡の中心となる時期

10,000年前 8,000年前 6,000年前 4,000年前 2,000年前

草創期	縄文時代					弥生
	早期	前期	中期	後期	晩期	
西田遺跡		■			■	
牛垣内遺跡	■			■		■
カクシクレ遺跡				■		■
丸山遺跡		■	■			
たのもと遺跡					■	

縄文時代早期から晩期まで数千年間、五味原の地で地点を変えながらも人々の営みが続いていたことがわかります。



## 発掘作業に参加して

新緑の季節となり本部整理室の窓からも青葉がとてもきれいに見えます。4月からは遺物も一新(?)して接合からです。「あった! 違った!」と感動したりがっかりしたりしながら、報告書ができるのを楽しみに毎日接合に励んでいます。

整理作業の仕事にたずさわるとなると丸三年。土器片が吸い寄せられるように接合できた喜びは、何にもかえがたいものになっています。

歴史の中の日常性に目を向けられる仕事につけて、今では生きがいとなっている毎日です。

整理作業は歴史の一地点での関わりでしかありませんが、好きな縄文以外にも興味が湧き、重文クラスの遺物に出会える楽しさに心がときめきます。自分が何をしているのかを理解しながら、少しでも高級な技術に辿りつきたいと励んでいます。

限りなく夢の広がる仕事であるのがうれしいです。

### センター日誌

- 1.22 清見小岩田教頭、飛騨出張所来所
- 30 丹生川村教委上見教育長・林課長・西木係長、飛騨出張所来所  
土岐市埋文セ長瀬氏・諏訪氏、穂積整理所来所
- 31 池田町河瀬助役・文化財審議会土川会長他、二ノ井遺跡視察
- 2.3 池田町久保田町長、二ノ井遺跡視察
- 8 岐阜大附小古田氏、二ノ井遺跡視察
- 10 池田町教委下野教育長他3名、二ノ井遺跡視察
- 15 糸貫町教委岡戸氏・舟木山調査主任吉田氏、二ノ井遺跡視察
- 18 各務原市埋文セ大熊氏・美濃加茂市木村係長、野笹遺跡視察  
東大阪市文化財協会別所氏、二ノ井遺跡視察
- 20 大野町文化財保護審議会、穂積整理所視察
- 23 三重大八賀教授、二ノ井遺跡調査指導  
関市教委篠原氏・田中氏・垂井町教委原田氏、二ノ井遺跡視察
- 27 理事会、三重大八賀教授、下有知遺跡群調査指導
- 3.1 二ノ井遺跡(南高野古墳)現場公開
- 4 大垣市文化事業団惟屋氏他2名、二ノ井遺跡視察
- 10 各務原市埋文渡辺氏・岐阜大早川教授、下有知遺跡群視察
- 12 文化庁岡村調査官他、飛騨出張所来所
- 27 理事会
- 31 相模副理事長他7名退任
- 4.1 山元部長他8名着任
- 7 整理所仕事始め
- 15 野笹遺跡調査開始・古井小6年生、野笹遺跡発掘見学
- 21 願戸南遺跡調査開始
- 24 下有知遺跡群調査始め式
- 5.2 岩井谷遺跡調査始め式
- 6 塚奥山遺跡調査始め式
- 7 市場遺跡・野上遺跡調査開始
- 12 山之上地区試掘調査開始
- 23 敦賀女子短大網谷助教授、穂積整理所調査指導

### 本部整理所のみなさん



発掘された遺物、その中には指<sup>しあつこ</sup>痕がくっきりと残っている土器もあります。その指の痕に自分の指をあてると何千年も昔の人が、とても身近に感じられ不思議な気持ちになります。そして、どんな人達だったのか想像するのも楽しいものです。

ふとしたことからこの仕事にたずさわると、4年目を迎えました。土器を見ていると、「これが何千年もの時を経ているの?」と信じがたい気持ちになります。現代でも十分に通用するセンスの良いもの、薄くてきれいで繊細なもの。人間の感性に普遍性を感じる今日この頃です。

### あとがき

丸山校長先生には、お忙しいところ貴重な原稿をお寄せいただき感謝いたします。センター設立に向けて、当時の関係各位の皆さんの熱意が伝わってきます。今年で開設7年目を迎えました。職員一同気持ちを新たに頑張っていかなければと思っています。

この6年間、毎年10を超える遺跡で発掘調査を行ってきました。また、刊行しました報告書も31冊を数えます。

今年度も、14市町村14遺跡で発掘を行います。7整理所では、遺物の整理や報告書刊行に向けて作業を進めています。

8月には、恒例になりました『タイムスリップ探検隊』を関市下有知遺跡群で開催します。また、1月には、県博物館で速報展『土に刻まれた古代・中世 - コメづくり、ものづくりから -』を計画しています。

発掘成果の情報発信にも力を注いでいきます。